

令和 7 (2025) 年 度
一般選抜前期日程 試験問題
人間健康科学部 看護学科

小論文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で5ページ、解答用紙は全部で3枚あります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

第1問 以下の課題文を読んで、設問に答えなさい。

私が病院勤務をしていた頃、医療の役割は「一分一秒でも延命できるようにすることである」と先輩から教えられ、そのようなただ単に命をながらえるだけの医療を患者さんの家族から求められることが多かった。もちろん、本人は管につながれ、意思表示をすることができない段階になってからの話し合い、病室の扉には面会謝絶と表示され白い壁と天井に囲まれ心電図の単調な音だけが響く空間に寝かされている。当時は、これが正しい医療であると思っていた。そして、臨終の場面は常に医療の敗北感と家族の悲壮感のみが漂う空しい時間であった。当時、働いていた病院で死亡診断書を書くたびに、「これを在宅で行なうのは無理だろう」という気持ちだけが残った。

しかし、診療所で勤務するようになって、そのようなただ単に命をながらえる医療を求めている人たちがあまりに多いのに気づいた。外来に通われている人、往診をしている人、皆さんに尋ねてみたが、ほとんどの人は「家にいたい」「病院には行きたくない」とおっしゃっている。今まで最高の医療を届けようとしていた自分は、本当に患者さんたちから求められる医療を提供していたのか、そのような自問が続いた。しかし、往診に伺うたびに「ありがとう」と手を合わされる人や、地域の皆での穏やかな看取り、そして看取った家族の笑顔と満足感、それらを目の当たりにし、医師の考える最高の医療をすべての人が望んでいるわけではないと理解するには、そう時間がかからなかった。

「地域で看取る」これでよかったのだ。

しかし、今、もう一つの課題が浮かびあがってきた。

今まで地域で看取った多くの人は、昭和一桁生まれまでの人で、そのような方々は、人生を達観しているというか、老いや病に抗うようなことはせず、あるがままの人生を受け入れてこられたような方々であった。治療方針や介護のサポートにも常に「ありがとう」と言いながら、すべて「先生にお任せ」の人たちであった。しかし、今後そのような人たちに代わり、いわゆる団塊の世代の方々が後期高齢者となるピークが訪れる。団塊の世代の方々は、自分たちが高度経済成長を成し遂げた、そして、今の豊かな日本を支えてきたという自負があるとともに、「自分のことは自分で決めたい」という希望があると思う。

先に述べたように、今までの医療・介護の現場は、家族の希望に応じて延命治療を行ない、家族の負担と経済効率を天秤にかけて介護・施設をつくり続けてきた。言ってみれば、寡黙な高齢者に甘んじて、「お年寄りを大切に」と言いつつも、介護が必要になれば施設に入所するなど地域社会から排除し、「命は大切」とは言っても、本人の望む人生と向き合うことを避けてきたように思う。

(中略)

今まで考えたことはないかもしれないが、誰もが最期を迎えなければならないときが訪れる。事故や突然の病気などで、急に目の前に死が現われる場合もあれば、徐々にそのときが近づいてくる場合もある。いずれにせよ、この本を読んでいる今も、確実にそのときが近づいている。

しかし、いつ訪れるか、それは誰にもわからない。

もし、あなたが人生の最終章を迎えようとしたとき、どのような治療を受けたいか、どこで生活したいか、考えたことはあるだろうか。一分一秒でも延命したいと希望されるのであれば、口から食

べられなくなっても、点滴治療や胃に穴をあけて食事を入れる胃瘻^{いろう}栄養を行なうこともできる。呼吸が弱くなれば、気管に管をつないで肺に空気を送る人工呼吸もできる。心臓が弱ってくれば、心臓を動かす薬や機械を使うこともできる。

しかし、これらの治療は、あなたが意思表示できなくなっても続けられるため、ほとんどの場合は、いつ止めるのか自分自身では決めることができない。

本当に自分の人生の最終章を自分で決められなくていいのだろうか？

出典：花戸貴司『ご飯が食べられなくなったらどうしますか？—永源寺の地域まるとケア』

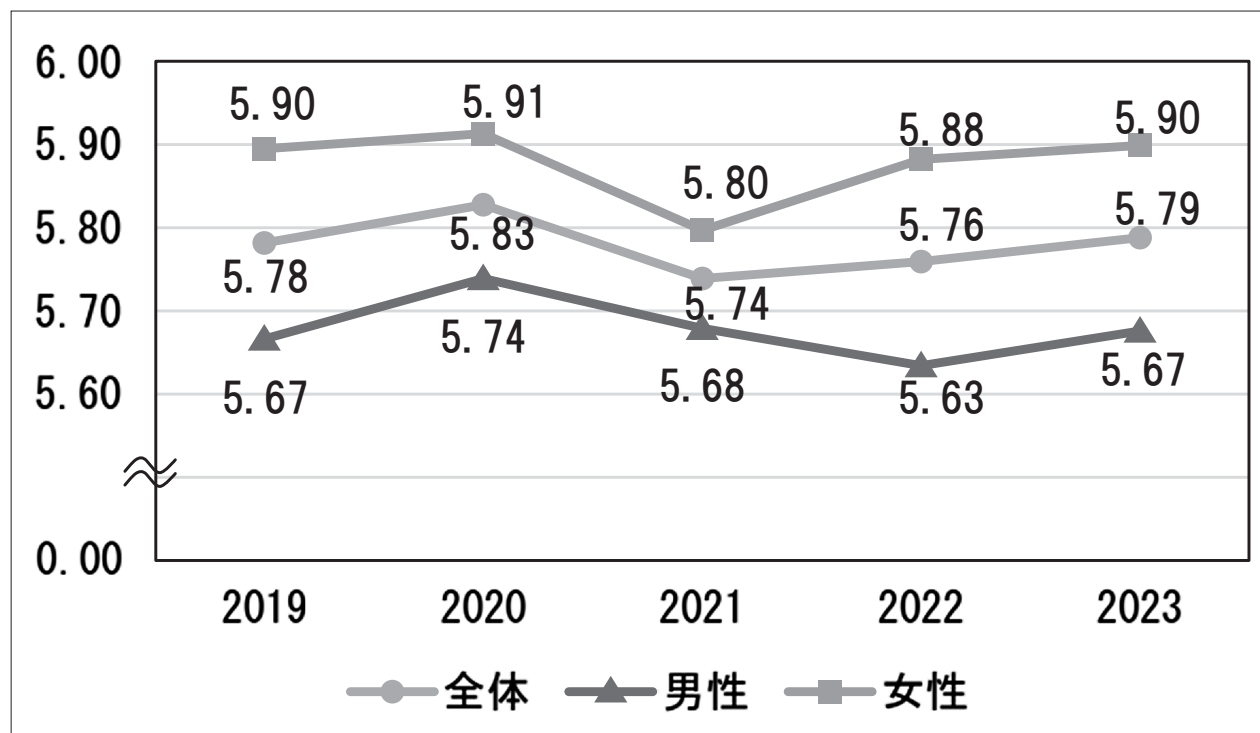
一般社団法人農山漁村文化協会，2015，p.203-205（一部改変）

設問1 「地域で看取る」うえで浮かびあがってきた課題を200字以内で述べなさい。

設問2 地域に暮らす人々が住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすために、あなたが必要と考えることを600字以内で述べなさい。

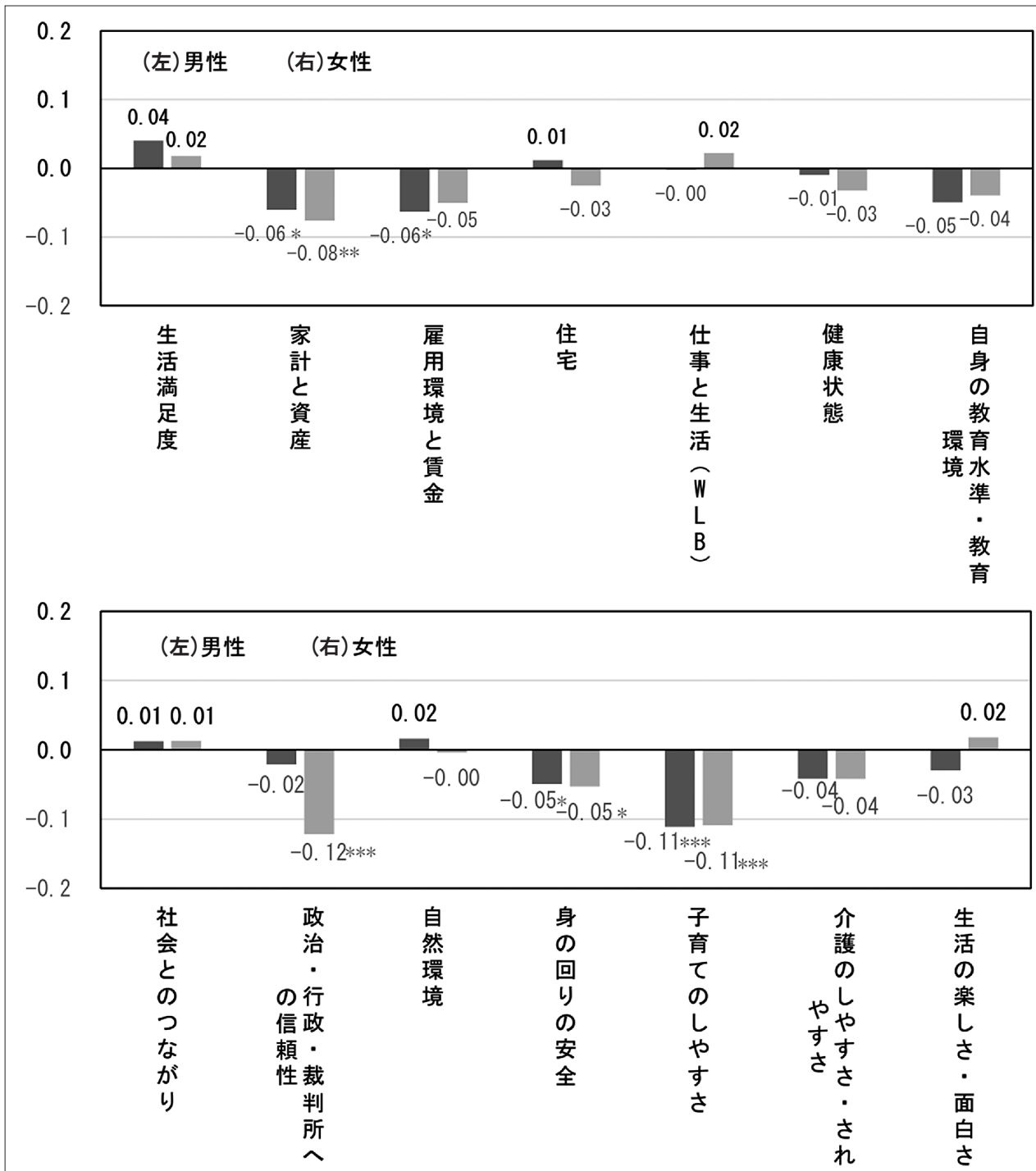
第2問 次の資料をもとに、下記の設問に答えなさい。

図1. 生活満足度の推移



出典：内閣府 令和5年7月『満足度・生活の質に関する調査報告書 2023 ～我が国の Well-being の動向～』より
(一部改変)

図2. 生活満足度と13分野別満足度の前年度（2022）調査からの変化



（備考）***、**、*のマークのついているものは統計的に前年度と意味がある差があったことを示している。

出典：内閣府 令和5年7月『満足度・生活の質に関する調査報告書 2023 ～我が国の Well-being の動向～』より
（一部改変）

設問 1 図 1 より読み取れることを 3 つ述べなさい。

設問 2 図 2 より読み取れることを 3 つ述べなさい。

設問 3 図 1、図 2 を見て、生活満足度を上げるために、あなたが必要と考える取り組みを 800 字以内で述べなさい。